

生活力部会

市民憲章とのかかわり（部として実現をめざしていく項目）

- 1 ふるさとの自然を愛し 花と緑の豊かなまちをつくりましょう

15歳の浅江っ子像（育みたい児童像）

- 地域が大好きな子ども（郷土愛）
- 自分に自信がもてる子ども（自己肯定感）
- 人とつながり・ふれあう子ども（人間愛・絆）

学校教育目標

人権尊重を基盤とした、豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる知恵を備え、
気づき・考え・行動できる「浅江っ子」の育成

1 部の視点



浅江を愛する子どもの育成～豊かな体験と人とのかかわり合いを通して～

2 令和元年度の取組の振り返り（○、▲）と令和2年度に向けて（☆）

校内部会

学校だより、学年便り、連絡帳、メール等で配信を密にする。

（地域に協力をお願いしたいことは、CS 便りや公民館報でお伝えする）

- ・進捗状況を定期的に発信する。（CS 便りやHP で、活動の様子や収入について）
- ・取り組む担当者が偏らないよう、役割をきちんと決める。（学校の体制改善）

浅 Love 活動…「浅江地区や学校を愛する活動を意識して行う日」

① 雑紙回収について

- 日にちを決め（毎月5日）、保護者に発信することで、たくさんの量を集めることができた。
- 委員会活動を増やすことができたので子どもたちも意欲的に参加した。
- ▲雑がみ回収そのものが定着しているように思えない。
- ▲委員会活動としてきちんと機能しているか疑問が残る。収入報告がない。誰が出すのか。
- ▲やることが多いので、連絡帳に記入させるのを忘れてしまうことがあった。

② カミングフラワーデーについて

- 校舎内各所に、季節に応じた花が生けられていたのでとてもよかった。
- 花を愛でることで、子どもたちの情操教育に活用できる。また、手作りの花瓶がよい
- ▲どうしても冬場は少なくなる。寒い時期には花がないので困った。
- ▲人通りのない場所に花を生けていることがあるので気を付けた方がよい。
- ☆引き続き行っていくが、二つの取組を一つにして活動が続ける。雑がみ回収で得たお金で花を購入し、飾ることを提案したい。
- ☆いのちの池をきれいにする取組として何か良い案はないか保護者に投げ掛けたい。（最重要）

保護者部会より（令和2年度にむけて）

① 雑紙回収について

○ 回収の仕方に関する提案

ア) 回収日の工夫

日にちを限定せず一週間の枠を作れば持っていきやすいのではないかと。

（雨が降るともっていかない。残った雑がみはそのまま子ども会の回収へ流してしまうので、もったいない。）

イ) 回収場所・仕方の工夫

参観日などに、保護者が自由に持って行き、置いてよい場所を設定してくれるとありがたい。その場所を整理するのを委員会活動で行ってはどうか。

（回収の日に、委員会の子どもが取りに来ないことがあり、せっかく持って行った雑がみ持ち帰ったことがあった。各学級で集めて置き場にもっていくのもよいのではないかと。）

○ 雑がみ回収で得た収益に関する提案

収益があったら報告すべきではあるが、例えば収益についていのちの池の補修工事に充てるなどすれば、報告もその都度しなくてもよいのではないかと。

② カミングフラワーデーについて

○ 提案

雑がみ回収で得た収益でプランターと花を購入し、学校の玄関に飾るようにすれば、季節に関係なく花を置くことについては賛成。その他の内容も引き続き行ってほしい。

③ いのちの池について

○ 提案

雑がみ回収で得た収益の一部を池の補修工事にあてるとよい。

水が抜ける方の池を埋めて、花壇にしたらどうか。

企画委員会より（令和2年度にむけて）

① 雑紙回収について

- ・「なぜ雑紙回収をするのか」という目的を子どもともう一度共有するとよい。
- ・日にちを指定して意識付けする+ボックスを用意しておき、いつでも入れられる環境を作っておく（図書ボランティアの方がボックスを作ろうと語らせている）
- ・中学校とのつながり（環境課の事業利用）「分ければ資源」

② カミングフラワーデーについて

- ・月1日のカミフラデーを継続する。
- ・虹ヶ浜の植物紹介コーナー（花いっぱい委員会）に写真を掲示する。

③ いのちの池について

- ・経緯からしても、池として残したい。いのちの池が造られた経緯を子ども達と共有するとよい。

—令和2年度取組案—



① 雑がみ回収

- ・いのちの池復活プロジェクト（仮称）として、雑がみ回収で得た収益の一部を池の補修工事に充てる。（雑がみ回収の趣旨の明確化）

② カミングフラワーデー

- ・季節の花（虹ヶ浜海岸に咲く花）を紹介するコーナーを設け、委員会が掲示する。
地域住民の藪さんが撮影した写真を掲示する。（毎月持ってきてくださる）

（部の視点【浅江を愛する子どもの育成】へのつながり）